

今日のゴール

★ 第2問に出る帳簿・伝票問題の解き方の全体像を掴む

三伝票制

すべての取引は本来仕訳帳1冊に記録する。業務を分担するために伝票を使う会社もある。

3つのルール

① 入金伝票

科 目	金 額
(貸方科目)	× × ×

借方は 現金 固定
貸方の科目と金額のみ記入する

② 出金伝票

科 目	金 額
(借方科目)	× × ×

貸方は 現金 固定
借方の科目と金額のみ記入する

③ 振替伝票

借方科目	金額	貸方科目
(借方)	×××	(貸方)

①②以外のすべての取引
借方・貸方の両方を記入する

一部現金取引

1つの仕訳に現金とそれ以外の科目が混在する取引を**一部現金取引**という。伝票への記入方法は**2パターン**ある。

例：商品¥100,000を仕入れ、¥30,000は現金で支払い、残額は掛けとした。

借 方	金 額	貸 方	金 額
仕 入	100,000	現 金	30,000
		買掛金	70,000

① 分解する方法

出 金 伝 票	
科 目	金 額
仕 入	30,000

振 替 伝 票		
借方科目	金 額	貸方科目
仕 入	70,000	買掛金

② 擬制する方法

出 金 伝 票	
科 目	金 額
買掛金	30,000

振 替 伝 票		
借方科目	金 額	貸方科目
仕 入	100,000	買掛金

※全額掛けで仕入れ、現金で支払ったと仮定

例 題

商品¥80,000を仕入れ、¥20,000は現金で支払い、残額は掛けとした。なお、3伝票制を採用しており、商品売買取引の処理は3分法により行っている。出金伝票を次のように作成したとき、振替伝票に記入される内容を答えなさい。

出 金 伝 票	
×7年○月○日	
科 目	金 額
買掛金	20,000

→

振 替 伝 票		
×7年○月○日		
借方科目	金 額	貸方科目

解 答 (②擬制する方法)

振 替 伝 票		
×7年○月○日		
借方科目	金 額	貸方科目
仕 入	80,000	買掛金

出金伝票に「買掛金」が記載されている = 擬制する方法が使われている。

全額掛けで仕入れた（仕入¥80,000／買掛金¥80,000）と擬制し、現金¥20,000を支払い（買掛金／現金）と考える。

商品有高帳

商品の種類ごとに数量・単価・金額の出入りを記録する補助簿。払出単価の計算方法が2種類ある。

- ① **先入先出法**：古い仕入れ分から先に売り出したとして払出単価を計算
- ② **移動平均法**：仕入のたびに残高の平均単価を計算し直す

▶ 説明用問題（一緒に確認）

説明用 A商品（単位：円）

10月 1日 前月末残高：@200円 × 6個（1,200円）

15日 @300円で9個仕入れた

20日 10個売り上げた（売価@500円）

問：①先入先出法・②移動平均法それぞれで商品有高帳を完成させなさい。また純売上高・売上原価・売上総利益を求めなさい。

① 先入先出法 解答

商 品 有 高 帳（A商品）					（先入先出法）					
日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
10/1	前月繰越	6	200	1,200				6	200	1,200
10/15	仕 入	9	300	2,700				6	200	1,200
								9	300	2,700
10/20	売 上				6	200	1,200			
					4	300	1,200	5	300	1,500
10/31	次月繰越				5	300	1,500			
合 計		15	—	3,900	15	—	3,900			
11/1	前月繰越	5	300	1,500				5	300	1,500

売 上：@500×10個＝5,000円 売上原価：払出合計（次月繰越除く）＝1,200＋1,200＝2,400円 売上総利益：2,600円

② 移動平均法 解答

仕入のたびに平均単価（太字）を再計算する。残高は常に1ロット。
平均単価 ＝ （残高金額 ＋ 受入金額） ÷ （残高数量 ＋ 受入数量）

商 品 有 高 帳（A商品）					（移動平均法）					
日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
10/1	前月繰越	6	200	1,200				6	200	1,200
10/15	仕 入	9	300	2,700				15	260	3,900
10/20	売 上				10	260	2,600	5	260	1,300
10/31	次月繰越				5	260	1,300			
合 計		15	—	3,900	15	—	3,900			
11/1	前月繰越	5	260	1,300				5	260	1,300

平均単価の計算：（1,200＋2,700） ÷ （6＋9） ＝ @260円

売 上：@500×10個＝5,000円 売上原価：払出合計（次月繰越除く）＝2,600円 売上総利益：2,400円

売上－売上返品＝純売上高

純売上高－売上原価＝売上総利益

▶ 練習問題（自分で解いてみよう）

練習 B商品（単位：円）

B商品の払出単価の計算方法は問いの指示に従うこと。

8月 1日 前月末残高：@500円 × 4個 (2,000円)

5日 @700円で6個仕入れた

8日 8個売り上げた (売価@1,100円)

15日 @800円で10個仕入れた

25日 9個売り上げた (売価@1,100円)

問1：先入先出法で商品有高帳を完成させなさい。

問2：移動平均法で商品有高帳を完成させなさい。

問3：それぞれの方法で純売上高・売上原価・売上総利益を求めなさい。

問1 先入先出法 商品有高帳 (B商品)

(単位：円)

[illegible]

問2 移動平均法 商品有高帳 (B商品)

(単位：円)

[illegible]

日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
合 計			—			—				
9/1	前月繰越									

解 答

問1 先入先出法：

日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
8/1	前月繰越	4	500	2,000				4	500	2,000
8/5	仕 入	6	700	4,200				4	500	2,000
								6	700	4,200
8/8	売 上				4	500	2,000			
					4	700	2,800	2	700	1,400
8/15	仕 入	10	800	8,000				2	700	1,400
								10	800	8,000
8/25	売 上				2	700	1,400			
					7	800	5,600	3	800	2,400
8/31	次月繰越				3	800	2,400			
合 計		20	—	14,200	20	—	14,200			
9/1	前月繰越	3	800	2,400				3	800	2,400

売上原価：(2,000+2,800) + (1,400+5,600) =11,800円 売上高：@1,100× (8+9) =18,700円 売上総利益：6,900円

問2 移動平均法：

日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
8/1	前月繰越	4	500	2,000				4	500	2,000
8/5	仕 入	6	700	4,200				10	620	6,200
8/8	売 上				8	620	4,960	2	620	1,240
8/15	仕 入	10	800	8,000				12	770	9,240
8/25	売 上				9	770	6,930	3	770	2,310
8/31	次月繰越				3	770	2,310			
合 計		20	—	14,200	20	—	14,200			
9/1	前月繰越	3	770	2,310				3	770	2,310

平均単価：8/5後＝ (2,000+4,200) ÷10＝@620円 8/15後＝ (1,240+8,000) ÷12＝@770円

売上原価：4,960+6,930＝11,890円 売上高：18,700円 売上総利益：6,810円

固定資産台帳

固定資産の取得・管理・減価償却を記録する帳簿。計算を丁寧にやれば確実に得点できる。

$$\text{当期減価償却費} = \text{取得原価} \div \text{耐用年数} \times \text{当期使用月数} \div 12$$

▶ 説明用（全て埋まっている状態で確認）

当期：X6年4月1日～X7年3月31日 減価償却：残存価額ゼロの定額法・月割計算

固定資産台帳（備品・抜粋）（単位：円）

取得年月日	名称	耐用年数	取得原価	期首減価償却累計額	期首帳簿価額	当期減価償却費
X2年4月1日	備品 甲	5年	1,000,000	800,000	200,000	200,000
X4年10月1日	備品 乙	4年	800,000	300,000	500,000	200,000
X6年10月1日	備品 丙	5年	600,000	—	—	60,000
小 計			2,400,000	1,100,000	700,000	460,000

備品甲 X2/4/1取得→X6/4/1まで4年経過。期首累計：1,000,000÷5×4＝800,000。当期：1,000,000÷5＝200,000（最終年）

備品乙 X4/10/1取得→X6/4/1まで18ヶ月経過。期首累計：800,000÷4×18/12＝300,000。当期：800,000÷4＝200,000

備品丙 X6/10/1取得（当期中）→期首累計・期首帳簿価額は「—」。当期：600,000÷5×6/12＝60,000（6ヶ月分）

▶ 練習問題（自分で解いてみよう）

例 題

当期はX7年4月1日からX8年3月31日までの1年間。減価償却はすべて残存価額ゼロの定額法により月割計算で行っている。

問1. 固定資産台帳の空欄（ ）にあてはまる金額を答えなさい。なお、？は採点対象外。

問2. 仮に当期の8月末に備品Aを¥50,000で売却した場合の固定資産売却損益の金額を答えなさい。（売却益・売却損どちらか正しい方に○をつけること）

固定資産台帳（備品・抜粋）（単位：円）

取得年月日	名称	耐用年数	取得原価	期首減価償却累計額	期首帳簿価額	当期減価償却費
X3年4月1日	備品 A	5年	600,000	480,000	120,000	()
X5年10月1日	備品 B	4年	480,000	?	()	120,000
X7年7月1日	備品 C	3年	360,000	—	—	()
小 計			1,440,000	?	?	?

問2. ¥() 売却益 ・ 売却損

解 答

問1：

備品A 600,000÷5＝**120,000円**（最終年）

備品B 期首累計：480,000÷4×18/12＝**180,000円** 期首帳簿価額：480,000－180,000＝**300,000円**

備品C 当期中取得（X7/7/1）→期首は「—」 当期：360,000÷3×9/12＝**90,000円**

名称	取得原価	期首減価償却累計額	期首帳簿価額	当期減価償却費
備品 A	600,000	480,000	120,000	120,000
備品 B	480,000	180,000	300,000	120,000
備品 C	360,000	—	—	90,000
小 計	1,440,000	660,000	420,000	330,000

問2 備品Aを8月末（X7/8/31）に¥50,000で売却：

STEP1 4月～8月末の5ヶ月償却費： $120,000 \div 12 \times 5 = 50,000$ 円

STEP2 売却時帳簿価額： $120,000 - 50,000 = 70,000$ 円

STEP3 売却価額50,000円 < 帳簿価額70,000円 → **固定資産売却損 20,000円**

補助簿の選択問題

取引を見て、どの補助簿に記入が必要かを○で選択する問題。勘定科目と補助簿の対応を覚えれば確実に得点できる。

勘定科目と補助簿の対応

取引	勘定科目	記入する補助簿
現預金	現金	現金出納帳
	当座預金	当座預金出納帳
	小口現金	小口現金出納帳
仕入	仕入	仕入帳、商品有高帳
	支払手形	支払手形記入帳
	買掛金	買掛金元帳（仕入先元帳）
売上	売上	売上帳、商品有高帳
	受取手形	受取手形記入帳
	売掛金	売掛金元帳（得意先元帳）
固定資産	建物・備品など	固定資産台帳

商品有高帳は仕入・売上の両方で記入が必要！ 問題を解くときに忘れやすいので注意。

例 題

下記の9月中の取引が、どの補助簿に記入されるかを答えなさい。（会計期間はX7年4月1日からX8年3月31日）

- 9月 3日 備品（帳簿価額¥300,000）を¥180,000で売却し、代金は月末に受け取ることにした。
- 12日 商品¥240,000を仕入れ、¥90,000は現金で支払い、残額は掛けとした。
- 20日 商品¥350,000を売り上げ、¥200,000は約束手形を受け取り、残額は掛けとした。
- 30日 借方に計上していた現金過不足¥6,000のうち、¥4,000は旅費交通費の記入漏れ、残額は原因不明であった。

日付	現金出納帳	当座預金出納帳	商品有高帳	売掛金元帳	買掛金元帳	受取手形記入帳	支払手形記入帳	売上帳	仕入帳	固定資産台帳	該当なし
9月3日											
12日											
20日											
30日											

解 答

日付	現金出納帳	当座預金出納帳	商品有高帳	売掛金元帳	買掛金元帳	受取手形記入帳	支払手形記入帳	売上帳	仕入帳	固定資産台帳	該当なし
9月3日										○	
12日	○		○		○				○		
20日			○	○		○		○			
30日											○

- 3日 備品売却→固定資産台帳のみ。代金は「未収入金」（売掛金ではない）ので売掛金元帳×
- 12日 仕入→仕入帳・商品有高帳、現金支払→現金出納帳、残額掛け→買掛金元帳
- 20日 売上→売上帳・商品有高帳、手形受取→受取手形記入帳、残額掛け→売掛金元帳

今日のまとめ

★ 第2問に出る帳簿・伝票問題の解き方の全体像を掴んだ

- ① 三伝票制：現金増＝入金伝票・現金減＝出金伝票・それ以外＝振替伝票。一部現金取引は分解法・擬制法の2パターン
- ② 商品有高帳：先入先出法は古い単価から使い複数ロット管理、移動平均法は仕入のたびに平均単価を再計算。売上原価は払出欄の合計
- ③ 固定資産台帳：定額法×月割計算。売却損益は「売却時帳簿価額 vs 売却価額」で判定
- ④ 補助簿の選択：仕入・売上では商品有高帳も必須。固定資産売却代金は未収入金→売掛金元帳×。現金過不足の原因判明は該当なし